

**Amir Tsarfati 氏 フェイスブック Q&A①**  
**中東情勢アップデート 2018年3月22日公開**

.....

久しぶりに Q&A が出来ることを、とても嬉しく思います。とても興味深い質問をされる方が結構おられますから。今日（書記注：日本時間 3 月 23 日午前 5 時～）は、それらの質問にお答えしたいと思います。その前に、お祈りしましょう。

お父様、あなたに感謝します。私たちは集まって、あなたの御言葉を見、世の出来事を見ていきます。そして、あなたの御言葉が生きていること、あなたの御言葉が真実であること、あなたの御言葉が両刃の剣よりも鋭いこと、あなたの御言葉が私たちを清めてくださることを理解します。それは真理です。私たちはただ、真理によって清められます。あなたの御言葉は真理ですから。お父様。あなたに感謝します。また、この時間もあなたの御名があがめられますように。そして私たちが、もっとあなたに近づきますように。このお祈りを、他にはない、私たちの主、救い主、イスラエルの希望、異邦人を照らす啓示の光、イエシュア、イエスの御名によってお捧げします。

神の民は、皆で言いましょう。

アーメン。

アーメン！さて、皆さんシャローム！アミール・ツアルファティです。今から短くアップデートをして、それから Q&A を行ないます。

つい先日、重要なアップデートを行いました（2018年3月19日）、その中で、ロシアの大統領選について、プーチンには今期、確実にゴグの悪霊が入り、彼の意図することを行うだろうという、私の考えをお話しました。ロシアは現在、自らを、対ヨーロッパ、対アメリカ、対ほとんどの全世界と問題を抱える立場に置いています。そして、現在のロシアの数少ない味方といえば、エゼキエルの預言が成就に至るまで、ずっと味方として添い遂げる国々だけです。非常に興味深いです。それから、この 48 時間以内（2018年3月22日）の間に、我々が公表した件、もはや機密でも影に隠された事でもなく、イスラエルが公式に認めたのは、2007年9月（5日から6日の未明）、8機の戦闘機——4機の F-15 と 4機の F-16 による、シリア、デリゾールの砂漠にあった核原子炉への攻撃です。これは北朝鮮によって建設された、北朝鮮の原子炉で、長年、少なくとも彼らはそこを「農業研究所」である、と公言していましたが、我々は、イスラエル諜報特許庁・情報機関「モサド」を送り込んで、ヨーロッパのある集會にゲストとして行っていた、シリアの原子力機関トップのノートパソコンを「拝借」し、彼のコンピュータから全情報を回収した後、我々は現地にイスラエル司令部隊を送ることを決定、彼らは巨大ヘリコプターの CH-53 で着陸した場所から、24 時間以上かけてそこまで歩いて行き、土の標本を採取して持ち帰りました。そして、それがイスラエルにとって、あそこにあるウラン原子炉の動かぬ証拠となったのです。イスラエルは、当時の米大統領ジョージ・W・ブッシュ（書記注：第 43 代大統領）と、コンドリーザ・ライス（書記注：第 66 代国務長官）に情報を明らかにしました。

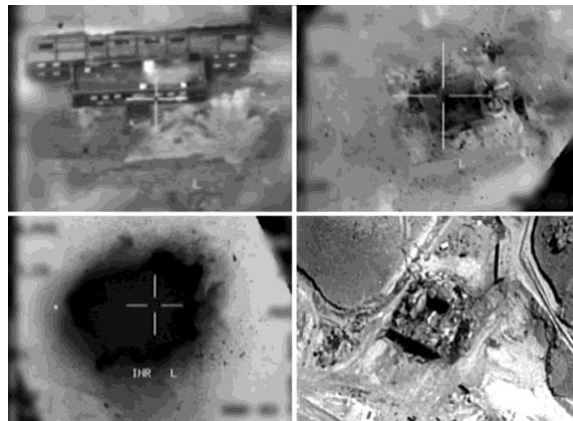


ブッシュ元米大統領（左）とライス元米 국무長官（右）

信じがたいかもしれませんが、アメリカは 2007 年 9 月当時、

「シリア国内のいかなる攻撃にも参加するつもりもなければ、それを始めるつもりもない」

と言い、文字通り、我々は孤立しました。イスラエルは、自分たちでそれを行うしかない、と、2007 年 9 月初めの週の午前 1 時近くに攻撃を開始し、長くはかかりませんでした。シリアの砂漠にあった核原子炉を一瞬で攻撃して、シリア人たちを驚愕させたのです。



イスラエル軍が撮影した、原子炉空爆を捉えた写真

素晴らしいのは、シリアは自分たちがそれを持っていたことを決して認めず、私たちは、自分たちがそれを破壊したことを決して認めなかった。だから、それで完了だったのです。アサドは、武器調査官がそこに入ることを認め、何もなかったことを証明しようとしていましたが、実際には、あちらでウランの痕跡があったことが確認されたのです。ですから、彼は自分で自分の首を絞めました。問題は、私たちは「もう一つある」と疑っています。実際には、シリアのアル＝クサイクという町の地下施設の存在を疑っていて、——ここはダマスカス北部から数百マイル離れた、レバノンとシリア国境です——我々には、あちらで何が行なわれているかだけでなく、デリゾール原子炉に運ばれることになっていた、少なくとも 800 の冷却機、冷却棒がそこにあることも分かっています。我々が把握している、あちらで使用されている電気の総量や、あちらで行われている建設、全てをカモフラージュするための活動から、あそこで何か怪しい事が行なわれているというのは間違いありません。そして、イスラエルが、第一原子炉を破壊したことを認めた理由の 1 つは、——イスラエルは、世界中に

「我々は、敵の手中にある核兵器は、一切容認しない。」

「もしイランがそれを持つなら、我々は攻撃する。」

「シリアが新しいものを建てるなら、我々はそれを攻撃する。」

と、告げているのでしょうか。これはもはや、「もしも」の話ではなく、時間の問題です。わたしはこの状況が、非常に興味深いと思いました。

もう一つ、興味深いニュースは、インド航空の、ニューデリーからはるばるテルアビブまでの史上初のフライトが、数時間前にニューデリーを離陸しました。



インド航空の尾翼

フライト番号はAI-139、インド航空 139 便です。イスラエルが存在してきた 70 年の中で、どの国のものであれ、民間機の直行便が問題なくサウジの領空を飛行したのは、これが初めてです。皆さん、これまでイスラエルとサウジの関係が良好になって来ていることをお伝えしてきましたが、——現在、実際にサウジはイスラエルに協力しています。もちろん、標的はイランで、共に協力して対処しようとしているのですが、しかし、イスラエルが存在してきた 70 年の中で、テルアビブへ向かう民間航空機が、サウジの領空を飛行することを許可されたのは、これが初めてです。飛行機は、20 分ほどで着陸する予定です。ということで、初の民間航空機、出発地がどこであれ、テルアビブに向かう飛行機が初めてサウジの領空を飛行した、というニュースでした。これは歴史的、あらゆる面で特記すべき、物凄い事だと思います。

もう一つ、歴史的な事——アメリカ議会が今日（3 月 22 日イスラエル時間）、テイラー・フォース法案を可決しました。テイラー・フォース法とは、テイラー・フォースという人物の名にちなんでおり、彼はアメリカの退役軍人でした。確か、特殊部隊だったと思いますが、別の目的で彼はテルアビブにいて、パレスチナ人のテロリストに殺害されました。そして、彼の家族がパレスチナ当局を訴え、彼らが継続してテロリストの家族に資金提供しないために、パレスチナ当局へのあらゆる資金援助を差し押さえるよう、アメリカ政府に要請しました。基本的に、彼らが毎月テロリストに与えている資金は 4 億 5 千万シェケル、1 億ドル以上です（書記注：1 ドル 105 円とすると、日本円に換算すると 105 億円）。それを彼らは毎月、テロリストとその家族に支払っているのです。そして、アメリカの議会が

「パレスチナ当局が、テロリストの家族への資金提供を止めない限り、我々はパレスチナ当局を支援しない」と告げました。当然、これは報酬になるのですから、彼らはお金がなければ、自爆して出来る限り多くの人を殺すと、家族は大金を手にすることが出来るのです。ということで、非常に興味深いことが今日、起こりました。リンゼー・グラム（書記注：サウスカロライナ州選出・共和党上院議員）がこの 2 年間、この問題に関わ

って来て、今日、議会在テイラー・フォース法を可決しました。そして今、パレスチナ当局は正式に破綻しました。イスラエルを破滅させようとし、攻撃しようとし、否定し、存続する権利を否定しようとする、たぶん、これがその報いでしょう。片方で平和を語りながら、反対側ではテロリストの家族に何億ドルという資金提供をして、テロを奨励するなんてことは出来ません。それはただ、テロを増長させるだけです。自爆して、人を殺した者の家族に、何億ドルという報酬を与えるような国を、国連は賞賛すべき国として受け入れるのだろうか、と疑問に思います。しかし、パレスチナは、世界中の他の国が盲目であることを享受しています。彼らは、オバマ政権に甘やかされました。オバマ政権は、彼らに何も命じませんでした。今や、新しい執行官が取り締まっているのです。ドナルド・トランプは

「もはや、これまでだ」

と言っています。パレスチナ大統領は、ドナルド・トランプとの初会談で

「そんなことはしていない。テロリストには一切資金提供していない」

と言ったのです。そして、トランプ大統領のイスラエル訪問中に、それが嘘であることが判明した時、彼は、パレスチナ大統領に対して激怒し、

「あなたは、私の事務所で私を欺いた。あなたがテロへの資金提供を止めない限り、私たちはあなたには協力しない」

と言いました。以上が現在起こっている事です。この70年の間、イスラエルを滅ぼそうとして来た、パレスチナの試みの一つ一つが失敗に終わりましたが、今回は「見事な大失敗」です。パレスチナは正気になって、これらは悪化する一方である事を理解すべきです。エルサレムが首都である、と認識されたところから始めて、続けて、大使館がこれから2ヶ月以内に移転します。その上、パレスチナ当局への経済支援が打ち切られたのです。彼らが国際社会に泣きついたところで、大した効果は上がらない事を、彼らは理解しなければなりません。彼らの最大の支援者であったサウジアラビアは、彼らの支援を止めました。最大の支援者であった、他のスンニ派穏健国家も、もはや彼らを支援していません。エジプトもヨルダンも、パレスチナが二重取りをしていたことを理解しています。パレスチナが、一方では平和を語り、他方ではテロを奨励していることを知っており、彼らも、もはやパレスチナを支援していません。ですから、現在パレスチナ当局は、非常にイライラしていて、もしかしたら事態は変わるかも知れません。——私には分かりませんが、一つ確かなのは、イスラエルは、パレスチナを恐れる必要はない、ということです。私たちが恐れるべき事があるとなれば、シリア国内で核原子炉が建設される可能性、中東の微妙なバランスをイランが崩すこと、それから、プーチン大統領が、中東で好き放題するために、今回の選挙で国民の75%近くの支持を享受したことです。非常に興味深い事です。

何人かの人から聞かれたのですが

「アメリカがシリアを攻撃する可能性について語っておられましたが、それに関してはどうなっているのでしょうか？」

これについて、私は動画ではなく、フェイスブックで、文章でお伝えしてから、まだ48時間も経っていませんが（イスラエル時間3月22日）——アメリカは、現在文字通り、ユーフラテス川の東岸を支配しています。



シリアの地図

彼らは東側において、そして西側にはシリアの兵士、ヒズボラ、ロシアがいます。問題は、シリア最大の油田4つのうち3つが東側で、既にアメリカによって支配されています。そして、2番目に大きな油田 T2 がユーフラテスの西側にあつて、それが、この48時間の中に、ISISによって占領されたのです。ISISは消滅したと思っているかも知れませんが、ISISは消滅していません。彼らは、自らよみがえったのです。彼らは再編成して登場し、非常に巧妙で激しい攻撃を行いました。彼らは、4台の自爆車を爆発させ、その場で23人の兵士を殺害し、T2を占領しました。そして、まさにシリア西側への石油供給のほとんどを——あちらにあるロシア空軍基地にも——ストップさせたのです。現在、アメリカは、イラクから兵士たちとともに、戦車、ロケット発射台、武装車と、更には、あちらにあった橋梁展開用装甲車（ALVB：架線戦車、戦車橋とも）も移動させています。これら全てが、アメリカに援護された軍隊が、T2を占領するために、ユーフラテス川の西側に攻め込む計画をしていることを、周辺の者全員に告げています。これはすごい事です。そしてロシアは現在、この事に関して非常に苛立っています。ロシアは、シリアでの活動に対して、自分たちの分け前を得ようとしているのに、死者ばかりが出て、何も報酬を得られていないのです。石油も、ガスも得られず、非常に鬱憤が溜まっています。

以上が、今日アップデートでお伝えしようと思っていたことです。

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

#### 【写真出典一覧】

ブッシュ元米大統領：Wikipedia「ジョージ・W・ブッシュ」

ライス元米國務長官：Wikipedia「コンドリーザ・ライス」

イスラエル軍が撮影した、原子炉空爆を捉えた写真：AFP BB NEWS「シリア『原子炉』空爆、イスラエルが認める 北の支援で建設か」2018.3.21

インド航空の尾翼：Wikipedia「インド航空」

シリアの地図：旅行のとも Zen Tech